

# みなみ だより

# 28

令和8年 冬号

## Contents

肺炎球菌ワクチンについて	2
放射線Q&A	
〜知って安心！放射線検査のこと〜	3
ユニフォームが新しくなりました	4
こどもの育ちサポートチームより	6
施設ご案内・交通ご案内	8

基本理念／医療・保健・福祉活動を通じて地域社会に貢献し、社会的責任と与えられた使命を全うします

信濃川に映る新潟市の夜景

# 肺炎球菌ワクチンについて

呼吸器内科感染症科 津畑 千佳子 医師

新型インフルエンザやコロナ禍以降、冬だけでなく一年を通して感染症が流行するようになっています。特に今シーズンはインフルエンザの流行が早く、子どもから大人まで多くの方が当院のかぜ症状外来を受診されています。中には、症状が長引き肺炎を発症された方もおられました。

風邪は一般的にウイルスが原因で発症します。ウイルスを鼻や口から吸い込むと粘膜に感染し、免疫が反応して炎症を起こします。粘膜がダメージを受けることで気道の防御機能が低下し、口腔内の細菌や体外の細菌が感染しやすくなります。そのため、当初はウイルスのみの感染であっても、細菌が二次感染を引き起こす場合があります。免疫力が十分でない、この二次感染により炎症が副鼻腔、気管支や肺へ広がり、副鼻腔炎、気管支炎や肺炎を発症します。高齢者は特に起こしやすいですが、多忙でストレスの多い若年者でも油断はできません。

まず、風邪症状があるときは、十分な休息と栄養をとることが大切です。症状が長引く場合や、膿性（黄色や緑色のどろっとしたもの）の鼻水・痰が増えてくる場合には、早めの受診をおすすめします。

風邪やインフルエンザ後に肺炎を起こす原因として最も多い細菌が肺炎球菌です。肺炎球菌には現在90種類以上の血清型が確認されており、中には重症化しやすいものもあります。これに対し、現在我が国には複数種類の肺炎球菌ワクチンがあり、どれを接種すべきか迷われる方もおられると思います。

2025年11月現在、定期接種（助成あり）の対象となっているのは65歳の方と、60～64歳で身体障害者1級に該当する特定の疾患をお持ちの方です。定期接種に使用されるワクチンは23価肺炎球菌莢膜多糖体ワクチン（ニューモボックス）で、助成を受けられるのは1回のみです。このワクチンは23種類の血清型に対応しています。しかし、近年は流行する血清型が変化してきており、より広い範囲を予防するには別の肺炎球菌ワクチンを追加接種する必要があるのが現状です。

任意接種（助成なし）とはなりますが、2025年秋から接種可能となった21価肺炎球菌結合型ワクチン（キャップボックス）を併せて接種することで、より広範な予防効果が期待できます。このワクチンは、重症化の原因となりやすい21種類の血清型を対象に製造されています。

すでに23価肺炎球菌莢膜多糖体ワクチンを接種された方は、1年以上の間隔を空けてからの接種が推奨されています。詳細は、かかりつけ医にご相談ください。

# 放射線Q&A

～知って安心！放射線検査のこと～



## Q1 放射線ってなに？

放射線とは、目の見えない「エネルギーの流れ」です。  
体の中を通り抜ける性質を利用して、病気やけがの様子を調べるときに使います。  
自然界にも放射線は存在し、私たちは普段の生活でも少しずつ浴びています。



## Q2 放射線を使う検査にはどんなものがあるの？



よく使われるのは次のような検査です。

- レントゲン(X線)検査：胸や骨などを調べるときに使います。
- CT検査：体を輪切りにして詳しく見ることが出来ます。
- マンモグラフィ：乳がん検診などに使う検査です。

\*ちなみに「MRI」は放射線を使わない検査です。磁気力で体の中を写します。



## Q3 放射線検査を受けると、体に悪影響はありますか？

通常の医療現場で受ける放射線量はとても少なく、安全と考えられています。  
例えば、胸のレントゲン1回で受ける放射線量は、自然に浴びる放射線のわずか数日分ほどです。  
必要な検査を受けるメリット(病気を早く見つけるなど)の方がずっと大きいのです。



## Q4 検査を何回受けても大丈夫？

放射線検査を受けるたびに、被ばく量(放射線を浴びた量)は少しずつ増えます。ですが、医師や放射線技師は必要な分だけ、できるだけ少ない線量で検査を行っています。つまり「必要な時に、必要な分だけ」行うことで、安全をたもっています。



## Q5 放射線技師ってどんな仕事をしているの？

放射線技師は、放射線を安全に使って正確な画像を撮る国家資格を持つ専門職です。患者さんの体にできるだけ負担を掛けず、少ない線量できれいな画像を撮るために、日々工夫を重ねています。



放射線について、困ったことや不安なことがありましたら、いつでもスタッフにお声掛け下さい。

★ユニフォームが新しくなりました★



新潟南病院スタッフのユニフォームを一新しました。  
 ユニフォームの統一化をはかり、部署ごとに色分けをしました。新たなユニフォームで、  
 これまでと変わらぬ前向きな気持ちで皆様にご利用いただきやすい病院づくりを目指します！  
 どうぞよろしくお願いいたします。 スタッフ一同



看護部  
(看護師)



看護部  
(ナースエイド)



医師事務  
作業補助者



栄養管理部



リハビリ  
テーション部



臨床工学技士



地域医療連携室



放射線部



検査部



歯科衛生士



薬剤部



視能訓練部

# こどもの育ち サポートチームより

初めまして。私たちは「こどもの育ちサポートチーム」として、新潟南病院で活動しています。チームは小児科医師・言語聴覚士・看護師・助産師で構成され、小児発達外来に通院されるお子さんとご家族を日々サポートしています。外来では、お子さんのことばやコミュニケーションに関するご心配をうかがい、医師による診察や、言語聴覚士による評価・個別訓練、看護師・助産師による育児相談など、多職種がそれぞれの専門性を活かしながら関わっています。

また、月1回のミーティングでは、お子さん一人ひとりの発達の様子や治療方針、園や学校、ご家庭での支援のあり方について意見交換を行い、情報を共有しています。3年前からは、院内の職員にも小児発達への理解を深めてもらうことを目的に、院内研修会や外部講師をお招きした講演会を継続して開催してきました。「子どもの発達を病院全体で支えていく」ことを目標に、地道ではありますが活動を続けています。

今年度は、病院の外にも一歩踏み出し、地域の子育て世代への支援として、コロナ禍前に行われていた「チューリップサークル」を再開しました。「チューリップ」という名前には、花言葉である“思いやり”“博愛”にちなんで、「すべての親子にやさしく開かれた場でありたい」という願いが込められています。対象は生後4～7か月のお子さんと保護者の方で、今年度は2回開催することができました。





首がすわり、寝返りが始まり、好奇心いっぱい周囲へ手を伸ばし、喃語が増えてくるこの時期の赤ちゃんが集まると、会場はとてにぎやかであたたかな雰囲気になります。サークルでは、医師からのスキンケアと事故予防のお話（危険予知トレーニング）、栄養士による離乳食の進め方と十倍がゆの試食、保健師（外部講師）による遊びの提案、そして参加者同士のフリートークなど、盛りだくさんのプログラムを行いました。

アンケートでは、「ネットの情報だけでは不安だったので、専門職から直接話が聞けて安心した」「同じ月齢の子どもをもつ方と話せて、親子で楽しい時間を過ごせた」といった声が寄せられました。情報があふれる時代だからこそ、「顔の見える専門職」と「同じ悩みをもつ仲間」と出会う場が求められていることを、改めて感じています。

今後も、チューリップサークルをはじめとした地域との交流の機会を大切にしながら、子どもの育ちサポートチームとして「親の憩いの場、親子の愛着の土台づくり」を支えていきたいと考えています。そして、新潟南病院が、困ったときにふと思い出してもらえる身近な相談窓口となれるよう、院内外の皆さまと一緒に取り組みを続けていきます。



# 施設ご案内・交通ご案内

介護老人保健施設 **女池南風苑**

〒950-0943 新潟市中央区女池神明1丁目3番地3  
TEL(025)284-3411 FAX(025)284-2188

在宅介護支援センター **女池南風苑**  
[指定居宅介護支援事業者]

〒950-0951 新潟市中央区鳥屋野2009-3  
TEL(025)283-0500 FAX(025)283-0663

新潟南訪問看護ステーション

〒950-0951 新潟市中央区鳥屋野2009-3  
TEL(025)284-7511 FAX(025)283-0663

にいがたみなみ めいけクリニック

〒950-0943 新潟市中央区女池神明1丁目7番地8  
TEL(025)284-7818 FAX(025)284-7830



上記以外にも、最寄りのバス停から当院までのルートを下記のURLにて調べることができます。

**にいがた新バスシステムの時刻表・運賃検索**

<https://transfer.navitime.biz/niigatabrt-newsystem/pc/map/Top>



## 診療科

 内科

 小児科

 外科

 婦人科

 眼科

 整形外科

 神経内科

 リハビリテーション科

 皮膚科

 泌尿器科

 歯科

